

別府大学 西村 明

私は別府大学に赴任してから3年になるが、司書課程・司書講習にもっともよく関わってきたように思う。司書講習では、司書補講習と合わせて毎年、入講式と修了式で3回挨拶をさせていただいているが(もっとも最近は忙しく1回抜けたりしているが)、筑豊の高等学校を回った時に‘司書講習を受けました’とか、‘司書講習の別府大学’という言葉は何回か聞き、まさしくこれは別府大学の財産であると思った。この長い歴史を支えてきた努力と苦労は並大抵のものではない。そして絶えず新たなアイデアがそこに結び付けられ、最近では絵本作りが行われ、その成果は刊行したいほど素晴らしい。とにかく司書講習が成功してきた基礎には先生方の熱意と受講生との温かい友情関係がある。

また、司書課程では、その課程の教育にはタッチしたことはないが、ここが中心になって「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」と「子どもの読書活動推進研修会」が行われてきた。両者は結びついているようであるが、前者は独立法人教員研修センターの委嘱事業であり、2年目に入っている。第1回目の成果は「深め発見する喜び―教員の指導力を拓く調べ学習」(DVD)に纏められ、教員研修センターのホームページで見ることが出来る。先日、調べ学習の新たな展開を知るために、このプログラムを推進していただいている大分豊府中学に見学に行ったが、生徒たちは生き活きと学んだ成果をパネル報告していた。後者の「読書活動推進研修会」においても幼稚園から高等学校の教諭、図書館の司書、教育委員会の関係者などが集まり、熱心な議論が毎年繰り広げられている。

この司書課程の取組は、図書館を基点とする調べ学習であり、国語力の向上であり、教員の教育力の改善に重点を置いている。最近の調査では、国語力が向上した背景に調べ学習の普及があげられており、昨年11月に行われた教職免許に関わる実地視察において、高く評価されたのはこの教員の教育力向上への取組である。私は分からないままに動いてきたのであるが、司書課程の非常に大切な仕事を少しばかりお手伝いできたのではないかと喜んでいる。

このように分からないままに動きながら、成果に結び付けてきたのは前図書館長、司書課程の責任者佐藤允昭教授であり、「先生、いま時間がとれますか。」と言って、学長室に来られて、相談ともなく、色々と話しているうちに、「それでは先生、よろしく。」というパターンで動いてきたようである。大分県教育委員会、別府市教育委員会にお供し、勉強させていただいた。まさに素人ながら、いつの間にか「調べ学習」(DVD)において専門家ぶってえらそうに教育について語ったりしている。もっとも教育についてはこれまで数十年にわたる現場での経験と考えを持っているのであるが、このような表明の場を与えてくれたことに佐藤教授に感謝しなければならない。私の別府大学での勤務はまだ3年を超えていないが、司書講習・司書課程、そして佐藤教授とは長い期間つきあってきたような気持ちになっている。司書課程・司書講習をさらに発展させ、別府大学の知的財産として全国の受講生の期待に応えるよう、ともに頑張りたいものである。